乳房腫瘤を形成した悪性リンパ腫の2例

熊本市立熊本市民病院　病理診断科
〇三浦　真嗣(MT)　河野　公成(CT)　松本　律男(CT)　山田　智子(CT)
溝上　美江(CT)　内田　衣里子(CT)　志賀　有紗(CT)
豊住　康夫(MD)　有馬　信之(MD)

はじめに

乳腺原発悪性リンパ腫（以下 ML ）は全 ML の 0.5 %以下、乳腺悪性腫瘍の約 0.15 %と極めて稀で、癌との鑑別や乳腺原発か他臓器原発かが問題となることが多く、注意を要する。

今回我々は、乳腺原発 ML と乳房腫瘤を形成した全身性 ML の 2例を経験したので報告する。

症例1

患　者：70歳代、女性

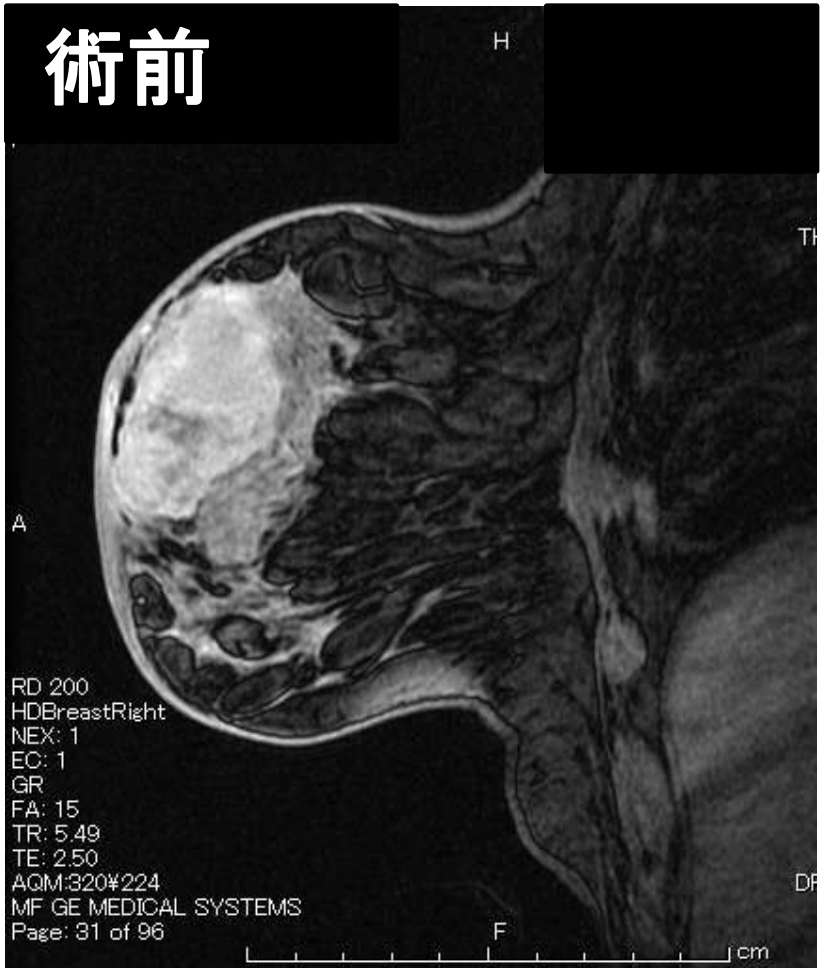
主　訴：右乳房のしこり

既往歴：特記事項なし

現病歴：右乳房のしこりを自覚し、当院乳腺内分泌外科を受診。超音波検査にて右 CD 領域に低エコー域を指摘され、針生検を施行するも確定診断に至らず。腫瘤が急速に増大するため、乳腺腫瘍摘出術が施行された。

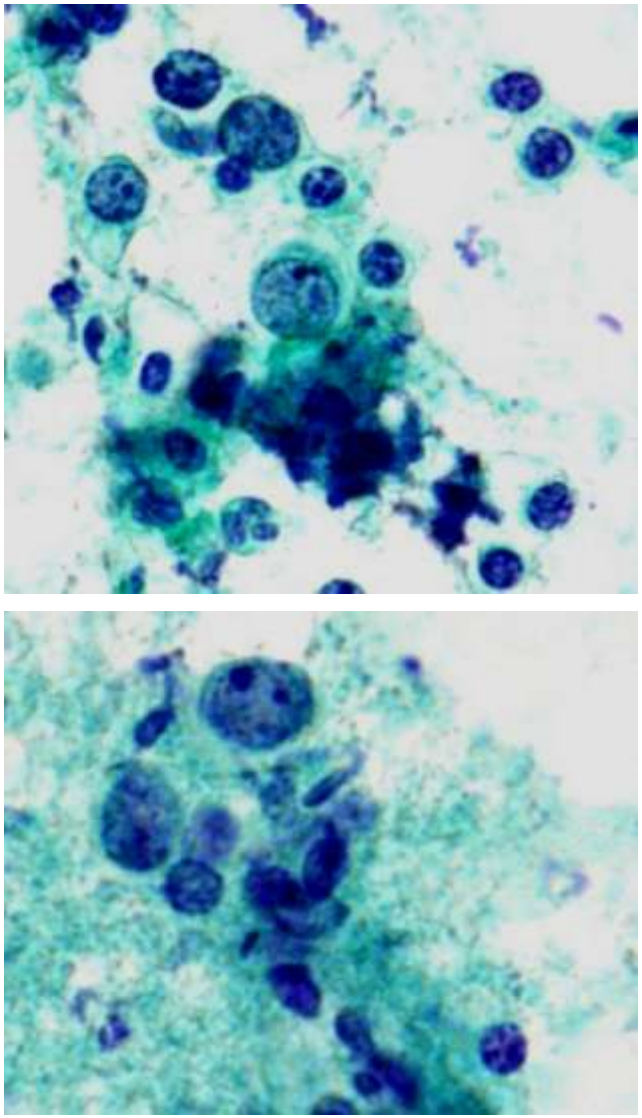
造影 MRI 画像



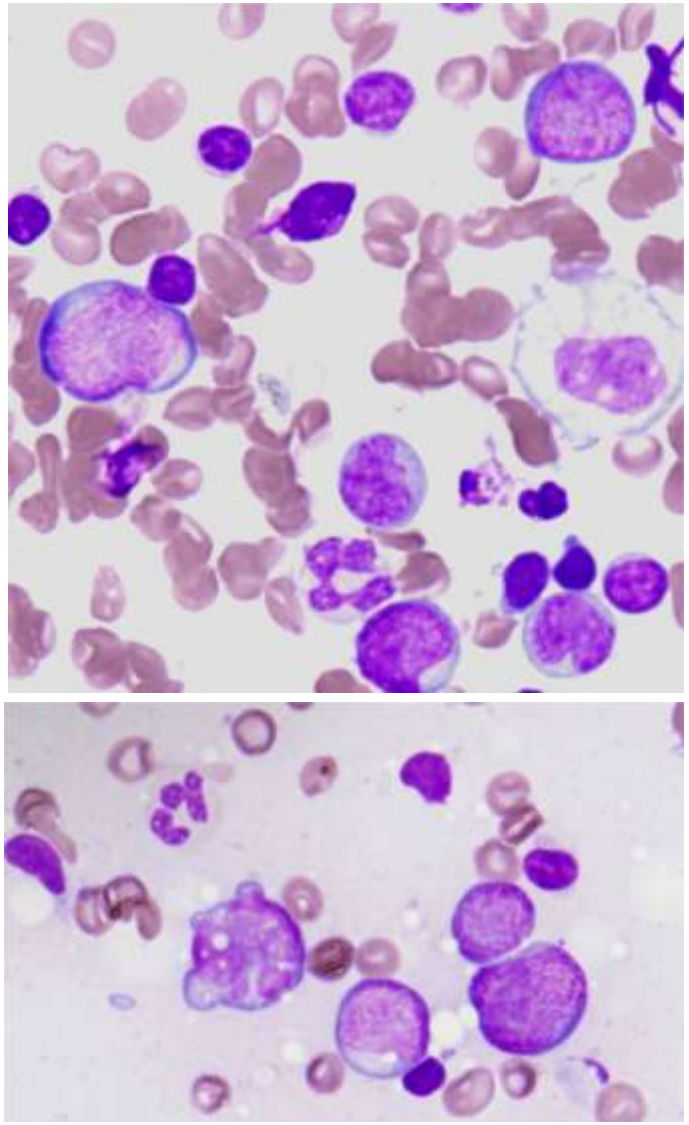


5.4x3.0x5.2cm

腫瘍捺印細胞像



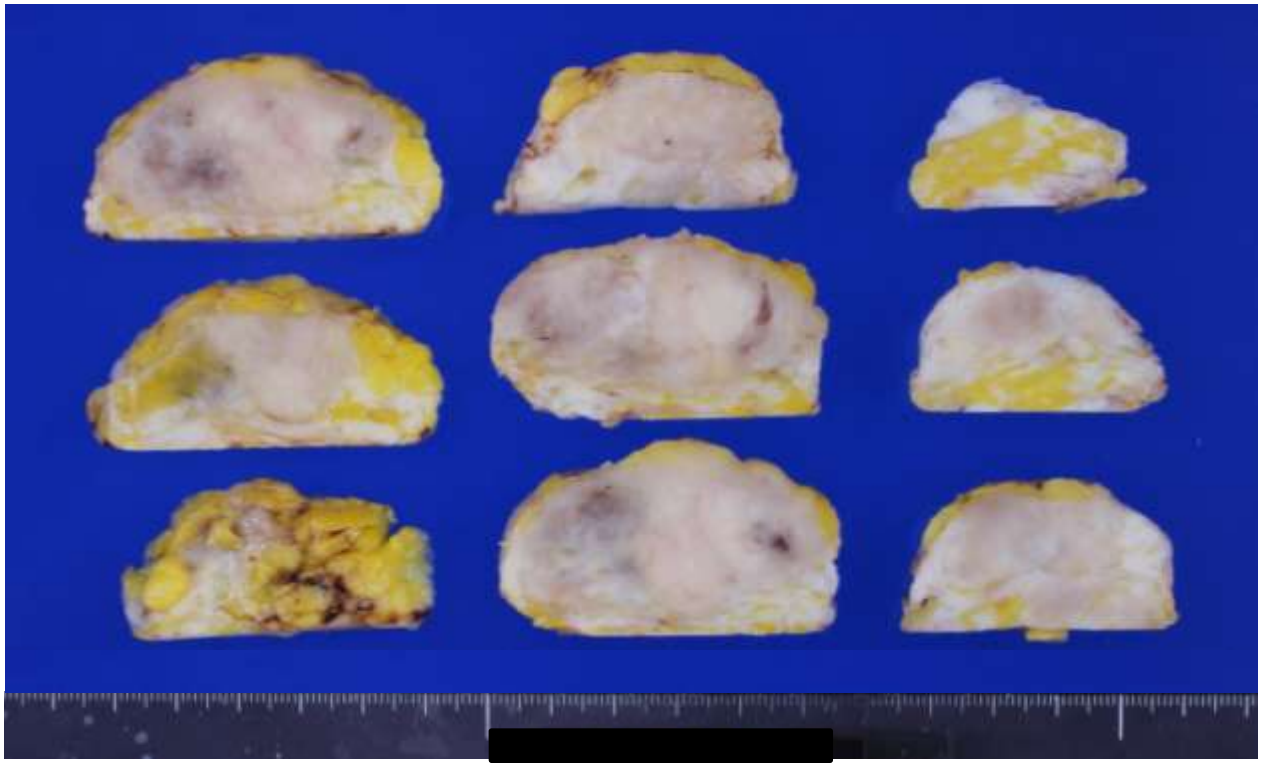
Pap. 染色　x60



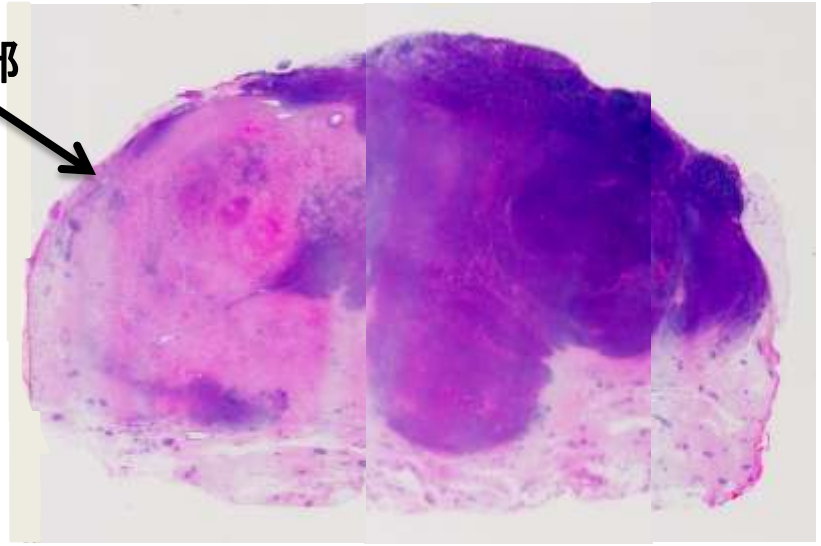
Giemsa 染色　x60

固定後割面像

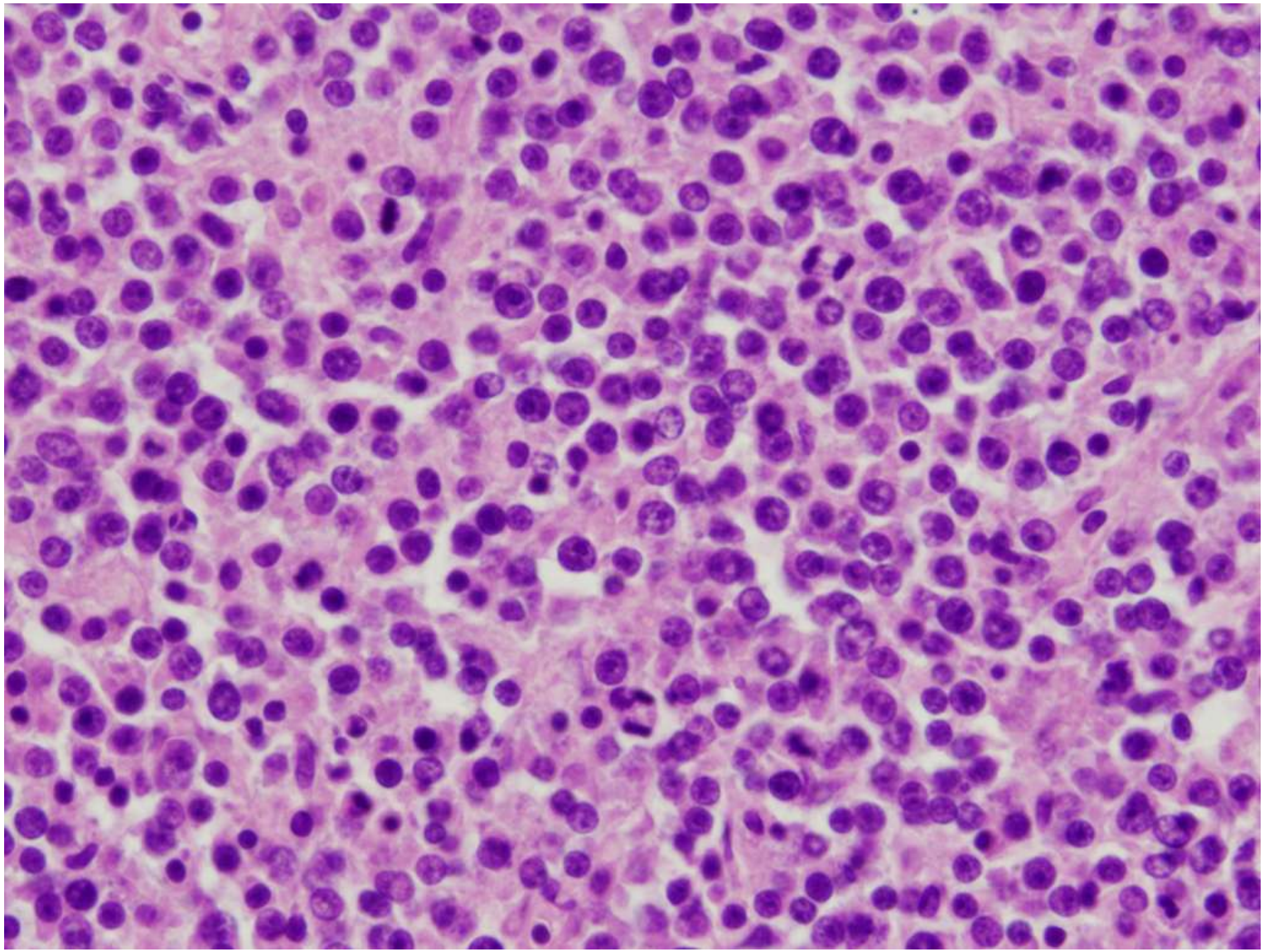
最大径約 5cm
灰白色充実状の腫瘍



ルーペ像

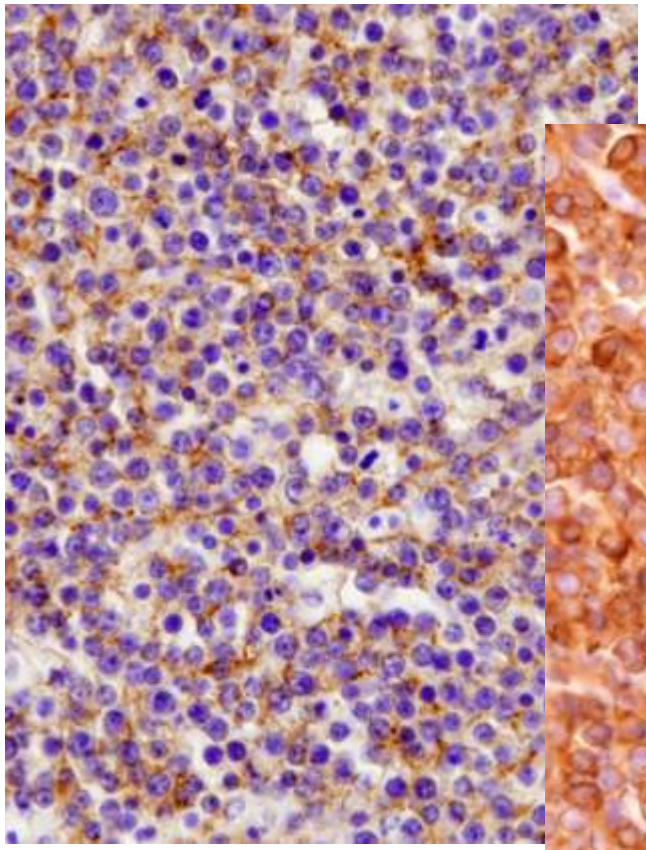


組織像（HE 染色 x40）

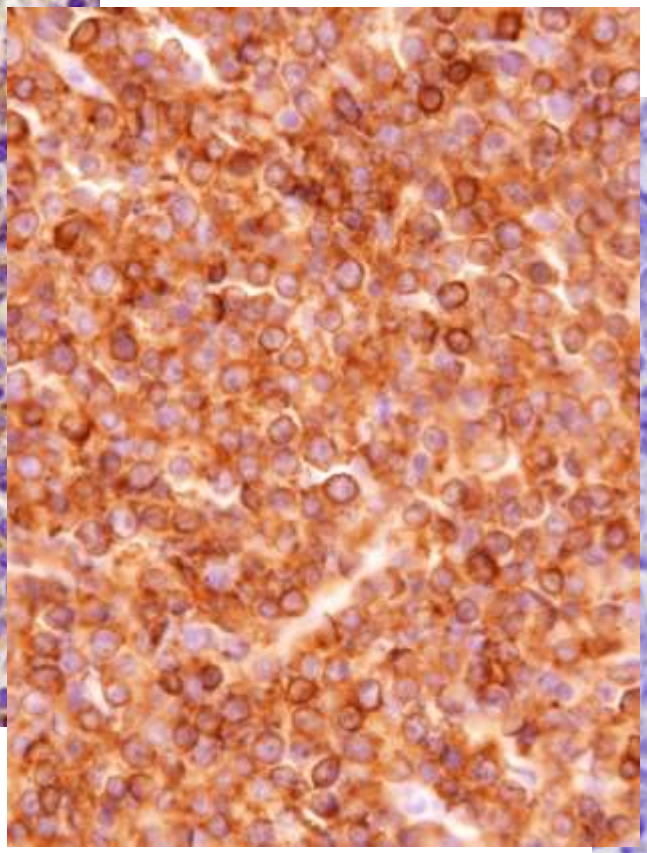


免疫染色

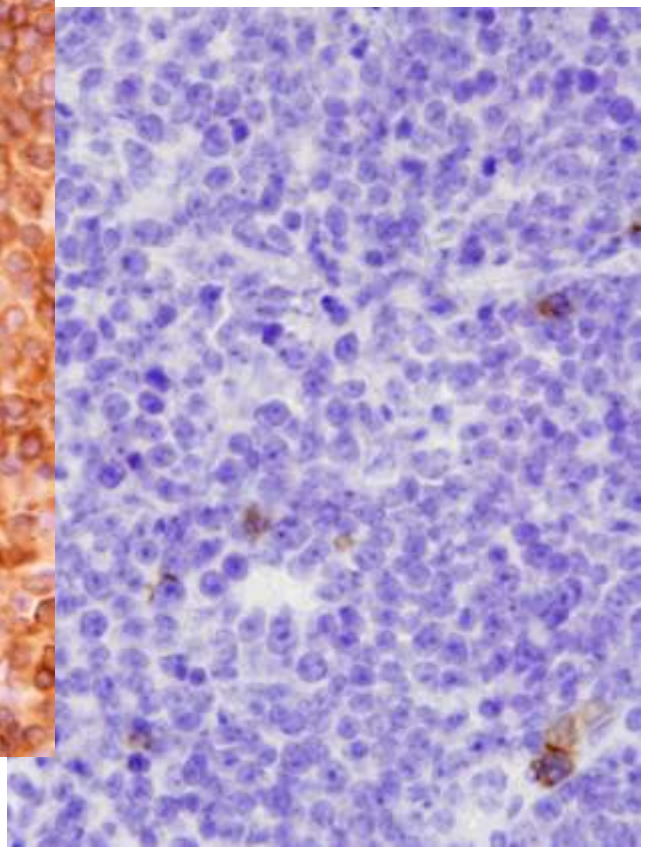
CD20



CD79a



CD3



免疫染色のまとめ

抗体名	結果
CD3	−
CD5	−
CD10	−
CD20	+
CD79a	+
CD138	−
MIB-1 LI.	70%前後

病理診断：Diffuse large B-cell lymphoma

症例2

患　者 :80歳代、女性

主　訴 :右乳房腫瘤

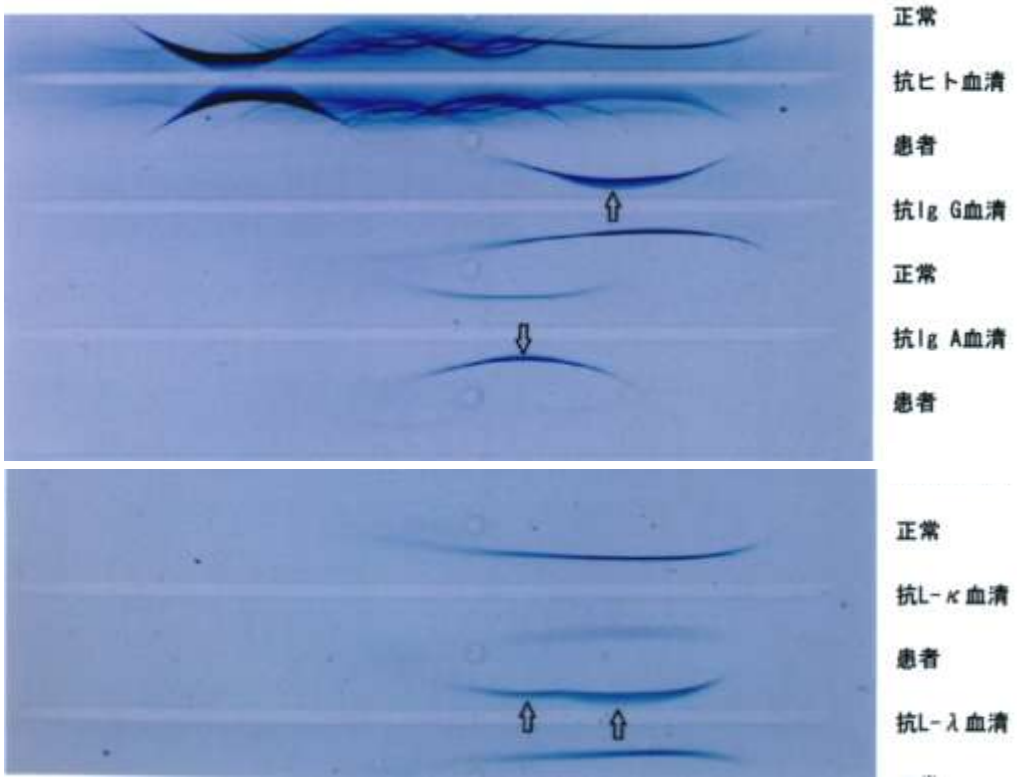
既往歴:他院にて多発性骨髄腫の疑いで治療中

現病歴:右乳房腫瘤を自覚し、当院を受診。画像検査にて、右乳房 C 領域に最大径 2～3 cm大の不整形腫瘤と両側腋窩リンパ節腫大を指摘された。

入院時検査所見

WBC	3600 /μl
Hb	9.6 g/dl
Plate	13.1×10^4 /μl
ESR	118 mm/1h
CRP	0.5 mg/dl
LDH	244 IU/l

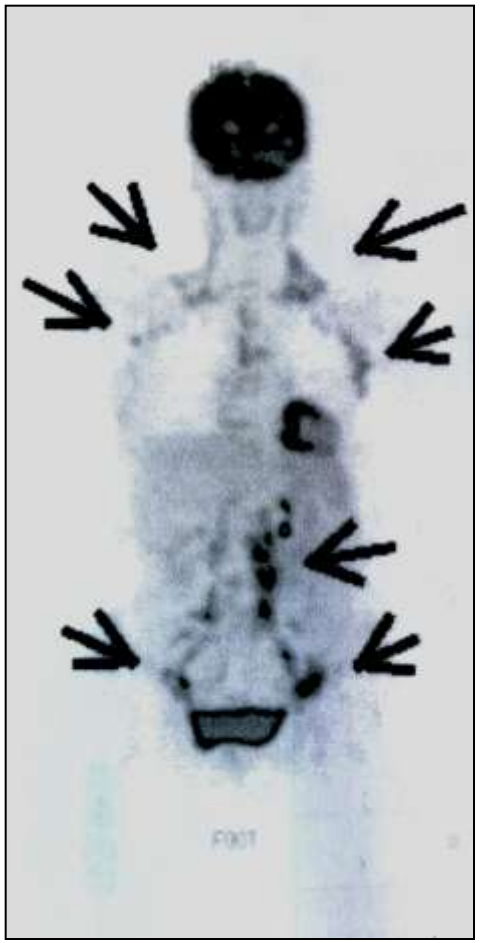
TP	10.7 g/dl
γ −gl	3.98 g/dl
IgA	1027 mg/dl
IgM	48 mg/dl
IgG	4739 mg/dl
sIL-2R	2331 U/ml



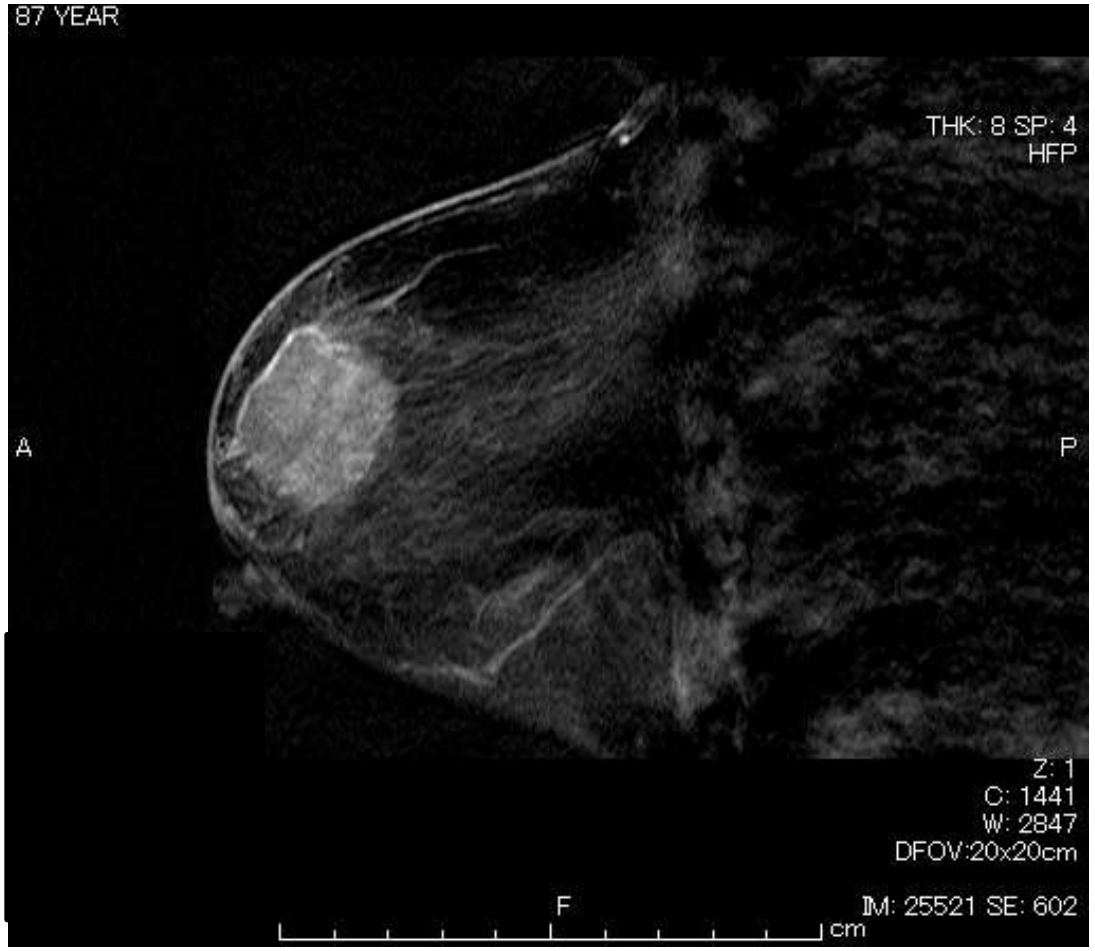
免疫電気泳動検査

画像所見

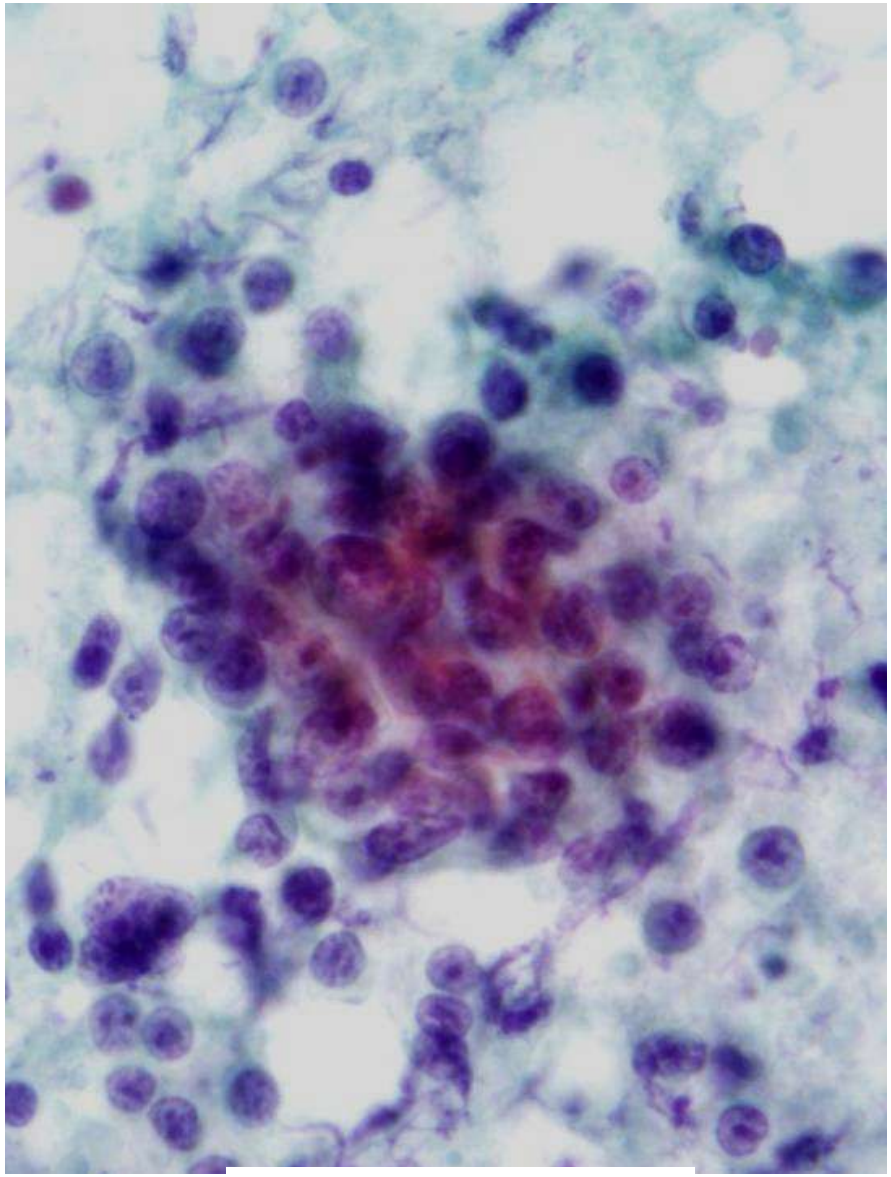
FDGPET



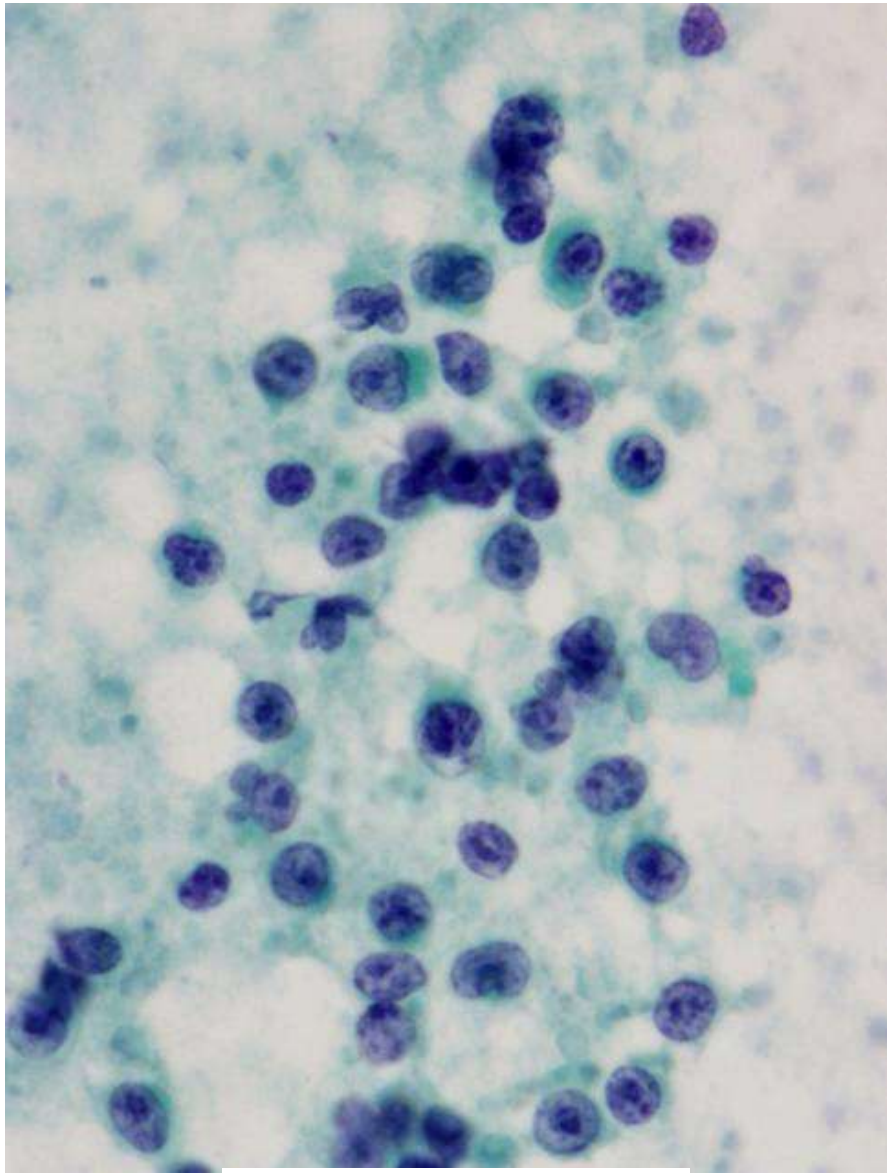
乳腺造影MRI検査



穿刺吸引細胞像

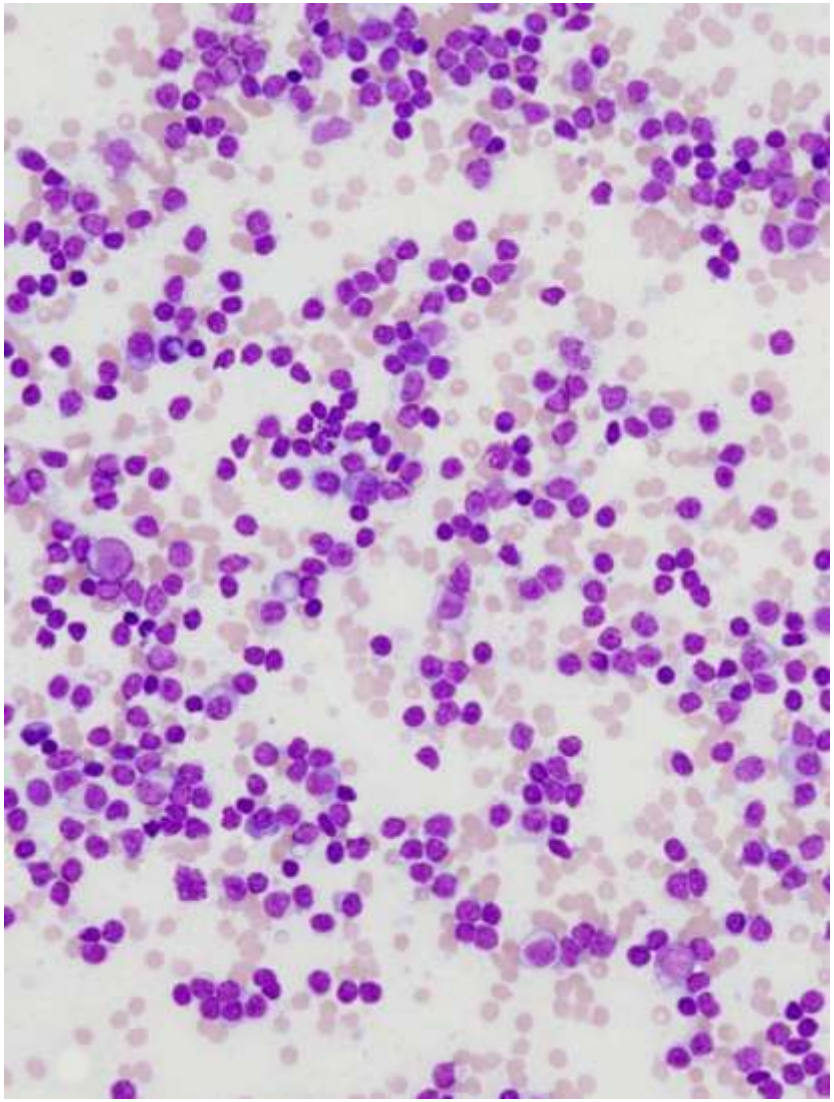


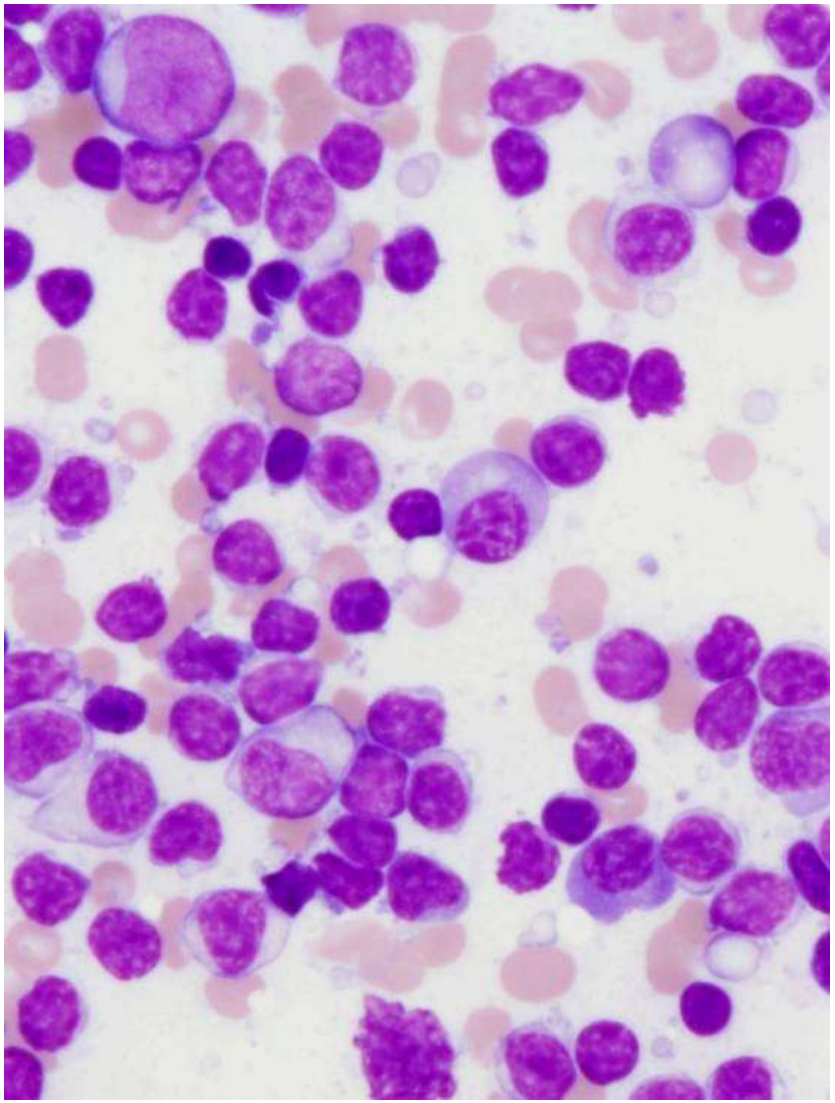
Pap.×60



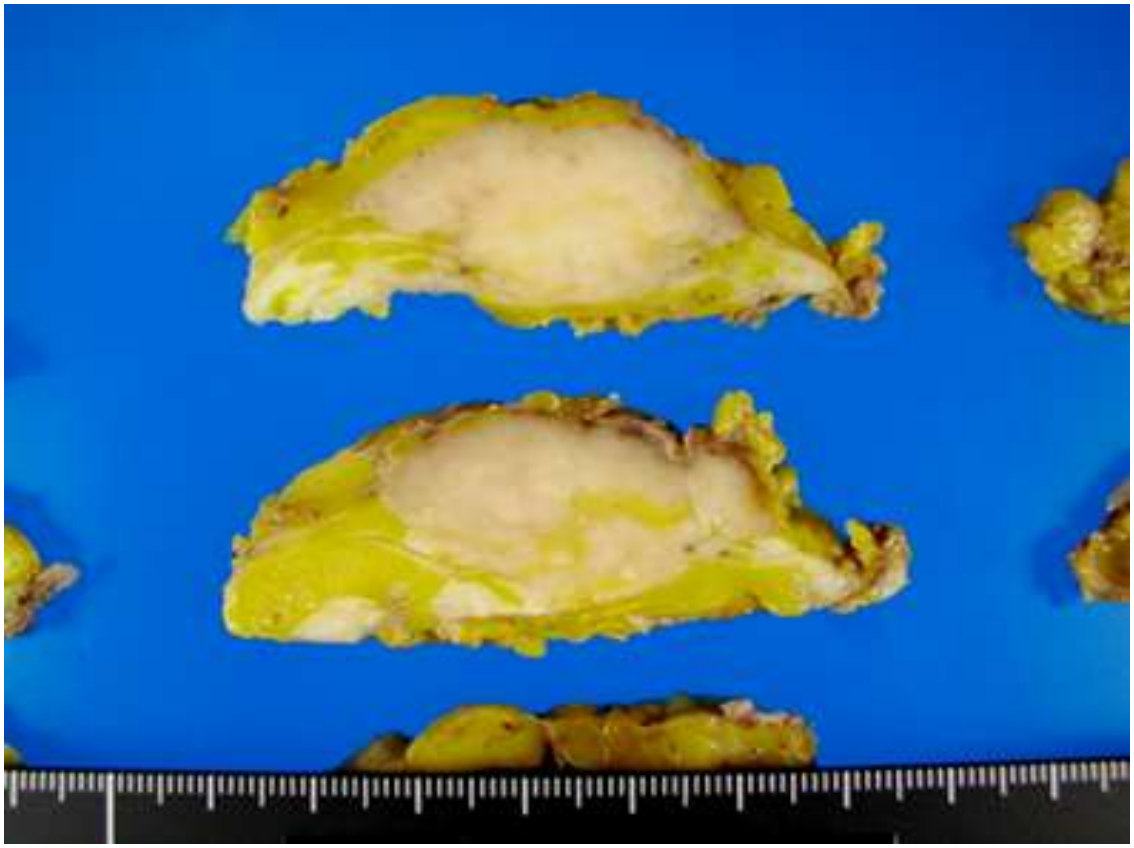
Pap.×60

腋窩リンパ節捺印細胞像
（Giemsa染色 x20/x60）



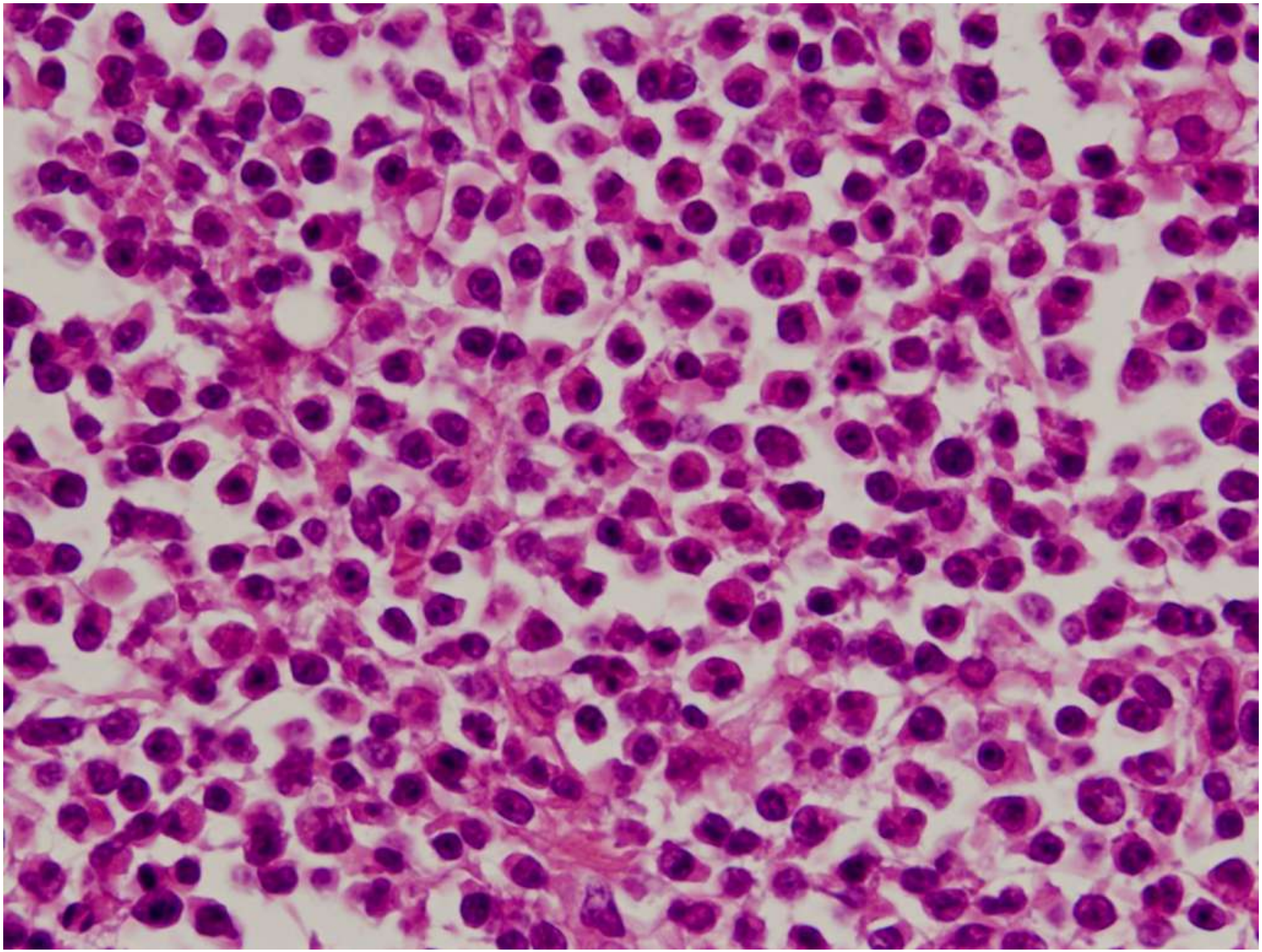


ホルマリン固定後割面像

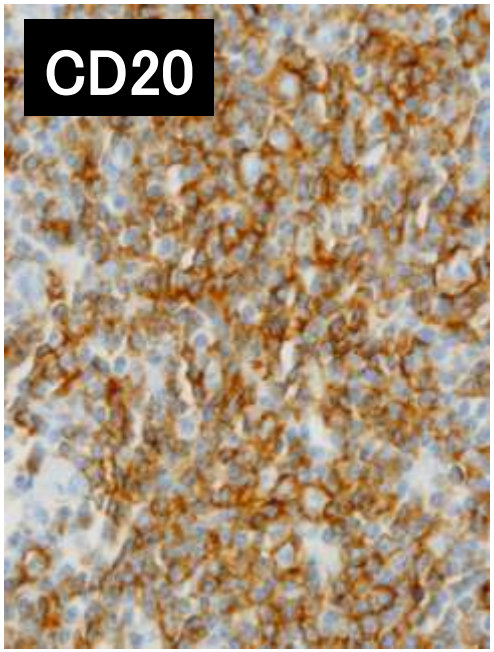


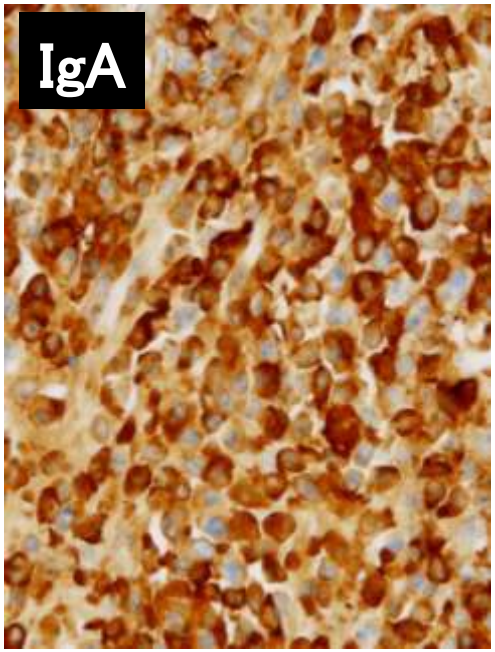
3.7x1.9 cm 大の比較的境界明瞭な
黄白色調の充実性腫瘤

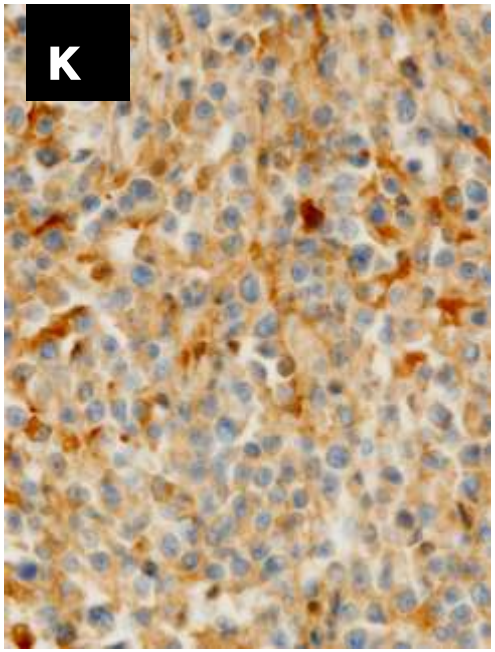
組織像（HE染色x40）

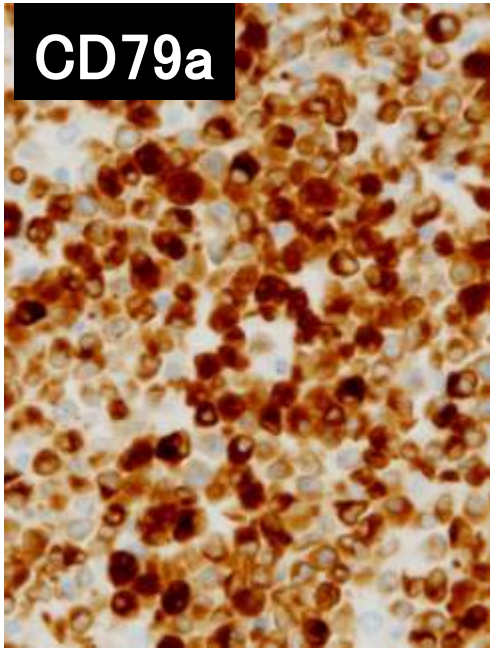


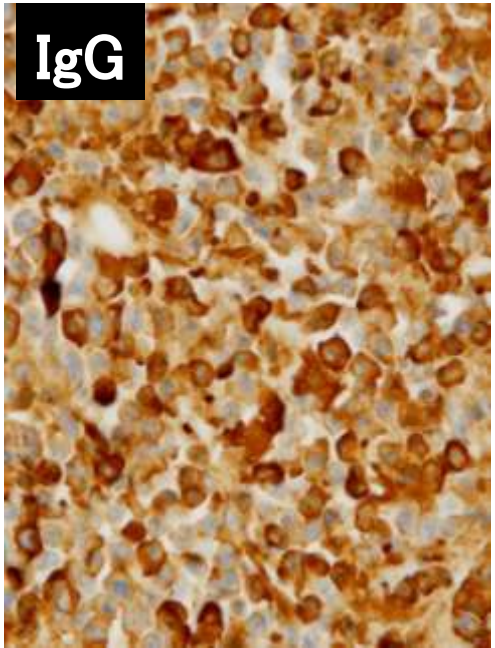
免疫染色

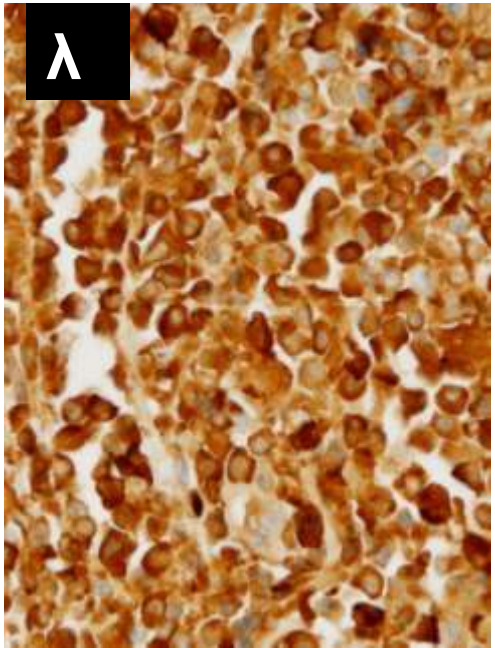












免疫染色のまとめ

抗体名	結果
CD3	−
CD5	+
CD10	−
CD20	+
CD79a	+
cyclin D1	−
IgA	+
IgM	−
IgG	+
κ	−
λ	+

病理診断：Lymphoplasmacytic lymphoma

まとめ

乳房腫瘤を形成したMLの2例を経験し、以下のことに注意する必要があると反省させられた。

① 乳房腫瘤の鑑別疾患にMLを忘れてはならない。

② 鏡検時に既往歴や画像所見を参照する必要がある。

③ 乳房の充実性腫瘤の診断には、ギムザ染色を併用することが望ましい。